

神経難病に特化したリハビリテーション部門の設置が二次医療圏の神経難病患者に対するリハビリテーションの提供に及ぼす影響

菊地 豊¹⁾ 一場 弘行¹⁾ 平田 奏²⁾ 鈴木 美和³⁾ 瀬間 良礎⁴⁾ 高橋 秀輔⁵⁾

金井 光康⁵⁾ 古井 啓⁵⁾ 針谷 康夫⁵⁾ 美原 盤⁵⁾

1)脳血管研究所美原記念病院 神経難病リハビリテーション課

2)脳血管研究所美原記念病院 医療情報課

3)脳血管研究所美原記念病院 看護部

4)脳血管研究所美原記念病院 連携室

5)脳血管研究所美原記念病院 脳神経内科

〔はじめに〕当院は2002年に神経難病専門病棟による神経難病患者のレスパイトケア目的入院事業を開始以降、難病医療協力病院として二次医療圏の難病医療に取り組んでいる。2011年には神経難病に対するリハビリテーション（リハビリ）の専門部門を設置し地域の神経難病医療のニーズに対応している。専門部門の設置が自施設および二次医療圏における神経難病患者に対するリハビリの提供状況について検討した。

〔方法〕2002年4月から2021年3月までに当院を受診した主要神経系特定疾患患者（運動ニューロン疾患；MND、脊髄小脳変性症・多系統萎縮症；SCD/MSA、パーキンソン病関連疾患；PD、n=2401）について診療録より後方視的に調査した。専門部門の設置前（2011年までの10年間）と設置後（2011年以降の10年間）で、自施設における主要神経難病患者の推移、リハビリ提供量、リハビリ提供率、二次医療圏の患者数（衛生行政報告例より算出）に対する提供率について比較検討した。

〔結果〕主要神経難病患者の受診者数は設置前794人（MND185人、SCD/MSA140人、PD469人）から設置後1607人（MND142人、SCD/MSA174人、PD1291人）に増加した。リハビリ提供量は設置前1.9±1.0単位/人/日から設置後3.8±0.2単位/人/日に増加した。リハビリ提供率は自施設内でMNDが設置前44%から設置後88%、SCD/MSAが設置前47%から設置後89%へ向上、PDは設置前43%から設置後39%であった。二次医療圏における提供率は設置前MNDが26%から設置後53%、SCD/MSAが設置前14%から設置後29%へそれぞれ向上したが、PDは設置前13%から設置後15%の変化にとどまった。

〔考察〕専門部門の設置により二次医療圏内の多くの神経難病患者にリハビリを提供していた。特にMNDとSCD/MSAは地域医療に必要とされる30%の占有率を示し、難病医療協力病院として一定の役割を果たしていると考えられる。一方、患者数が急増しているPDに対し広くリハビリを提供できる機能的な体制の構築が専門医療機関として必要と考えられた。